

高齢者の性と高齢者の性に対する看護師としての対応方法についての 看護学生の理解

—高齢者の性に関する講義後のレポート分析—

山崎さやか

健康科学大学 看護学部 看護学科

Nursing students' understanding of older adults' sexuality and how to appropriately respond as
nurses

— Analysis of a post-lecture report —

YAMAZAKI Sayaka

要 旨

高齢者の性についての講義受講後に、看護学生が高齢者の性と、高齢者の性に対する適切な看護師の対応について何を理解したか明らかにし、高齢者の性についての講義内容を検討することを目的とした。受講後、看護学生にレポートを書いてもらい、内容を質的帰納的に分析した。その結果、看護学生は、高齢者の性について【生殖機能と性的欲求の不均衡】、【性行動の男女間の乖離】、【性によって生じる生きがい感】、【性にまつわる苦悩】、【社会の無理解】、【高齢者特有の原因による性的欲求の衝動】を理解していた。高齢者の性に対する適切な看護師の対応として【性について話し合う】、【多面的な性の理解】、【偏見なく性を受容する】、【性的欲求を高めない環境づくり】、【その人らしい生き方の支援】を理解していた。本報告において、看護学生は、講義を受講することで、高齢者の性について多面的に理解し、看護専門職者としての高齢者の性に対する対応方法についての学びを得ることができた。

キーワード：高齢者，性，セクシュアリティ，看護学生

I. はじめに

文部科学省の看護学教育モデル・コア・カリキュラム¹⁾では、看護の対象理解に必要な基本的知識である「生活者としての人間理解」の学修目標として、「生活における性と生殖について理解できる」、「性周期と加齢に伴う生殖機能の変化について説明できる」等の記載があることから、老年看護学教育においても高齢者を生活者として捉え、高齢者の性について理解することが求められる。しかし、高齢者の性は、成人の性とは異なり、

生殖のための性という視点からは論じることができない難しさがある。看護学生を対象とした先行研究においては、高齢者の性についての認識^{2,3,4)}、高齢者のセクシュアリティに対する態度⁵⁾等が報告されている。しかし、高齢者の性についての講義内容を分析した研究や実践報告は見当たらない。

本報告は、高齢者の性についての講義受講後に、看護学生が高齢者の性と、高齢者の性に対する適切な看護師の対応について何を理解したか明らか

にし、看護学生が理解したことと授業目標・到達目標を照らし合わせて、高齢者の性についての講義内容を検討することを目的とした。

セクシュアリティは「性に関わる身体的行為や表象の総体。特に性衝動・性的嗜好性・性的関心・性的能力・性的魅力などをさす。⁶⁾」と定義する。本報告ではセクシュアリティに対応する日本語として「性」を使用する。

「高齢者の性に対する看護師の適切な対応」の「適切」とは、看護職として求められる対応を表す言葉として「適切」を使用する。「適切」という文言を入れた理由としては、看護師が高齢者の性的な場面に遭遇した時に「無視する」「拒否する」といった対応をしている報告⁷⁾があり、看護師の対応の中でも高齢者の性にとっては「適切」でない対応があると考えたためである。

II. 方法

1. 研究デザイン

高齢者の性についての講義受講後のレポートの質的帰納的分析。

2. 対象者

私立大学看護学部の1年生64名の中から研究の同意が得られた学生を分析対象者とした。

3. 講義内容

老年期の生殖と発達についての講義は、1年次後期で開講されるライフサイクルからみる生殖と発達についての講義(科目名「人間の生殖と発達」)全15回中の5回分であった。当該科目は、人の受精から成長・発達・加齢・個体死に至る一連の過程を性と生殖の視点から理解することを目的として講義・演習を展開した。該当科目の高齢者の性の講義は、老年看護学概論と並行していた。授業目標としては、高齢者の性の特徴を理解するとともに、高齢者の性についての今日的課題を理解することとした。到達目標としては、性の構造と機能を生理的側面から理解する、加齢に伴う生殖機能の変化について理解する、老年期における生殖機能と性的欲求との関連を理解する、看護・介護の場での高齢者の性の表出について理解する、高齢者の性に対する看護師の適切な対応について

考えることができることとした。1回の講義時間は90分であり指定教科書はなかった。高齢者の性に関する各講義回の到達目標と講義内容は、表1に示した。これら資料を引用してパワーポイントにまとめた資料を使用した。独自に資料を作成した理由は、教科書にある理論的な記述、論文で示されたエビデンス、高齢者の性の実態調査を組み合わせて教授するためである。

第1回目は講義形式であった。資料1で、高齢者の性は生殖という側面から離れ、連帯と快楽の側面に焦点があたることを説明した。資料2で、性ホルモン分泌と性的欲求・性行動の関係を確認し、資料3で加齢によって男性は勃起障害や射精障害が生じ、女性は膣の潤軟性が低下し、性行為がスムーズに行われなくなることを、加えて、男性は比較的高齢になっても生殖機能は保たれる一方、女性は閉経によって生殖機能は消失することについて説明をした。加齢による生殖機能の低下があっても性的欲求は維持することを、資料4,5を使用して高齢者が性的欲求を持っている事例、高齢であっても性行為を行っている事例を説明した。資料6,7で高齢者が自身の性について、パートナーを求めて人生を充実させたい等という肯定的な思いを持つ一方、誰にも相談できない、枯れるべき等と否定的に感じている側面もあることを説明した。第1回目の講義の最後に、性的欲求を充足したいという実際の高齢者の声を聞くことを目的として資料8の映像資料を見もらった。第2回目は講義形式であった。資料9,10,11,12を基に病院や施設で生じる高齢者の性の表出について説明をした。臨床で働く看護師や介護職も高齢者の性を尊重したいと思いながらも高齢者の性に当惑し専門職としての対応に苦慮している現状を、資料11,12,13で説明をした。高齢者の性に対する対応の一例として資料14を説明した。認知症高齢者の性的行動はなぐさめのニーズである可能性を、資料15で補足した上で、相手の心理面に目を向けた看護実践の一例として資料16を紹介した。資料16は、性的問題行動のある認知症高齢者の生活背景や性格に着目し、人に認められるという基本的ニーズを満たすような関わりをも

ち、性的問題行動がみられなくなった事例報告である。第3,4回のグループワークでは、教員はグループを巡回し、高齢者の性に対する対応は、「個人的な感情による対応ではなく、自分が看護師であったら、看護師としてどのように対応するか」と問いかけ、個人的な感情によらない看護職としての対応を考えられるように配慮した。第5回の成果発表では、教員が恣意的に介入せず、学生の言葉で高齢者の性の特徴について語ってもらうことに留意した。

講義終了後に、高齢者の性について理解したことと高齢者の性に対する適切な看護師の対応として理解したことについてレポートを課した。

4. データ分析方法

研究の同意が得られた対象者のレポートを繰り返し読み込み、レポートから「高齢者の性について理解したこと」および「高齢者の性に対する適切な看護師の対応」の学びについて記述されている箇所に着目し、意味のあるまとまりごとに抽出しコード化した。個々のコードを意味内容の類似性に基づきグループ化して、サブカテゴリー、カテゴリーを抽出した。抽出したカテゴリーの妥当性は、老年看護実践または老年看護学教育の専門家3名でコード、サブカテゴリー、カテゴリーの生成についての整合性を確認した。

5. 倫理的配慮

本研究は、健康科学大学研究倫理委員会の承認を得ている（承認番号H30第25号）。対象となる学生には、高齢者の性についての最終講義終了後に、レポート課題の説明とともに、研究代表者が書面と口頭により研究目的、方法、自由意思、拒否権、成績評価後にレポート分析を行うこと等について説明を行った。研究協力については自由意思であり、研究参加の拒否をした場合でも不利益は被らないこと、成績評価には無関係であることを説明した。同意書はレポート提出とは別に設けたボックスに提出してもらった。研究同意の有無は他の学生に伝わらない状況であった。同意書の署名をもって同意が得られたこととした。成績評価後に同意書を確認し、同意が得られた学生のレポートの氏名と学生番号を削除し番号を付け匿名化して分析を実施した。

Ⅲ. 結果

1. 研究の同意が得られた学生の概要

研究対象者の1年生64名（男性16名、女性48名）中、研究の同意が得られた学生は41名（男性8名、女性33名）であり、研究参加者の割合は64%であった。

2. 高齢者の性について理解したこと

レポートの内容から、6つのカテゴリーと17のサブカテゴリーが抽出された。カテゴリー、サブカテゴリー、代表的なコードは表2に示した。以下、カテゴリーを【 】,サブカテゴリーを< >,コードを<< >>と示す。

(1) 生殖機能と性的欲求の不均衡

カテゴリー【生殖機能と性的欲求の不均衡】は、<生殖機能の衰退><性的欲求の持続><生殖機能と性的欲求のギャップ>のサブカテゴリーから構成された。学生は<<生殖機能は衰える>>が、<<性的欲求は何歳になっても持ち続ける>>ため、<<生殖機能低下と性的欲求は比例しない>>と理解していた。

(2) 性行動の男女間の乖離

カテゴリー【性行動の男女間の乖離】は、<性的欲求の性差の出現><男性ホルモンの緩徐な低下による性的欲求の維持><直接的性行動への男性の願望><女性ホルモンの急激な低下による性的欲求の減退><間接的性行動への女性の希求>のサブカテゴリーから構成された。学生は<<男性は高齢でもテストステロンの分泌が保たれ性行動が活発である>>一方で、<<女性はエストロゲンの低下による性交痛などが生じ性行動を望まない傾向がある>>ため、性行動は<<直接的性行動への男性の願望>>と<<間接的性行動への女性の希求>>といった性差が生じることから、<<加齢に伴う性的欲求には男女で大きな差がある>>と理解していた。

(3) 性によって生じる生きがい感

カテゴリー【性によって生じる生きがい感】は、<性的欲求の充足によるQOLの向上><性による生きがい感の向上>のサブカテゴリーから構成された。学生は<<恋愛感情があることで生活の質の向上につながる>>、<<異性へ心がときめくと積

極的に生きる気力が湧いてくる」など、「性的欲求を満たすことがQOLの向上につながる」とともに、「性による生きがい感の向上」にもつながると考えていた。

(4) 性にまつわる苦悩

カテゴリー【性にまつわる苦悩】は、「性的欲求が衰退しないことへの苦悩」「夫婦生活の問題」「男性の性機能衰退への不安」のサブカテゴリーから構成された。学生は、高齢者は「性的欲求が抑えられず家族から失望されてしまうと苦しんでいる」状況であること、「男性と女性で性行動が異なるために夫婦生活の悩みを抱く」、「男性は老年期になると性機能に不安を持つ人が増える」などと、【性にまつわる苦悩】を抱えていると理解していた。

(5) 社会の無理解

カテゴリー【社会の無理解】は「社会の偏見」と「社会の逃避」のサブカテゴリーから構成された。学生は「高齢になれば性欲は無くなるものと多くの人が考えている」ために、「日本の社会は高齢者の性に対して嫌悪感を抱いている」ことに加えて、「社会が高齢者の性について目を伏せていた」ことから、高齢者の性についての【社会の逃避】があると考えていた。

(6) 高齢者特有の原因による性的欲求の衝動

カテゴリー【高齢者特有の原因による性的欲求の衝動】は「認知症による性的欲求の表出の変化」と「喪失体験による性的欲求の充足困難」のサブカテゴリーから構成された。学生は「認知症により性的欲求に抑制がきかなくなることがある」こと、「退職により活動が低下するため性的欲求を昇華することができず、性的欲求が抑えられなくなる」、「配偶者が亡くなることで性的欲求の発散ができなくなる」こと等から【高齢者特有の原因による性的欲求の衝動】が生じると考えていた。

3. 高齢者の性に対する適切な看護師の対応として理解したこと

レポートの内容から、5つのカテゴリーと14のサブカテゴリーが抽出された。カテゴリー、サブ

カテゴリー、代表的なコードは表3に示した。

(1) 性について話し合う

カテゴリー【性について話し合う】は、「高齢者と性について話し合う」「性について相談できる環境づくり」「性について家族へ説明する」のサブカテゴリーから構成された。学生は、高齢者は性にまつわる苦悩があるために、看護師が「性について家族へ説明する」ことや、「家族や医療スタッフを含めて性について自由に語れる雰囲気づくりをする」ことで、【性について話し合う】ことが大切であると理解していた。

(2) 多面的な性の理解

カテゴリー【多面的な性の理解】は、「生理的側面からの性の理解」「性のポジティブな側面の理解」「性的欲求が表出する背景の理解」のサブカテゴリーから構成された。学生は「高齢者の性的欲求は生理的なものである」こと、「高齢者が異性に関心をもつことは生きる意欲につながると捉える」こと、「性的欲求を表出する心理的背景を考える」ことにより、【多面的な性の理解】をすることが重要であると考えていた。

(3) 偏見なく性を受容する

カテゴリー【偏見なく性を受容する】は、「高齢者の性へ目を向ける」「高齢者の性を受容する」「偏見のない性の理解」のサブカテゴリーから構成された。学生は「高齢者の性へ目を向ける」こと、「偏見のない性の理解」をすることで、【偏見なく性を受容する】必要があると考えていた。

(4) 性的欲求を高めない環境づくり

カテゴリー【性的欲求を高めない環境づくり】は「気分転換できる場をつくる」「タッチングの活用」「看護師の冷静な対応」のサブカテゴリーから構成された。「看護師自身が身だしなみに気をつける」ことや、「毅然とした態度で行動する」ことに加えて、「気分転換できる場をつくる」こと、「タッチングを利用して安心感を与える」ことで【性的欲求を高めない環境づくり】をすることが必要と考えていた。

(5) その人らしい生き方の支援

カテゴリー【その人らしい生き方の支援】は「個別性にあった対応」、「高齢者の性を支援する

のサブカテゴリーから構成された。学生は「性的欲求は個人差があるため対応の仕方に正解はない」が、「高齢者が性について前向きに考えられる環境を作る」ことで、看護師として「高齢者の性を支援する」ことが必要であると考えていた。

IV. 考察

1. 授業目標・到達目標との照らし合わせ

ここでは、学生が高齢者の性について理解したことと、高齢者の性の講義における授業目標・到達目標を照らし合わせて、講義内容を検討する。

学生は、高齢者の性を【生殖機能と性的欲求の不均衡】【性行動の男女間の乖離】と理解していた。学生は、性ホルモン分泌と性的欲求・性行動との関連をふまえて、加齢によって性ホルモンの分泌が低下するが、高齢男性においてはテストステロンの分泌が保たれるために、性的欲求を維持し直接的性行動への願望があること、一方、高齢女性では、エストロゲンの分泌が急激に低下するため、性的欲求は減退し、触れ合う等の間接的性行動を求めると考えていた。したがって、到達目標の「性の構造と機能を生理的側面から理解する」、「加齢に伴う生殖機能の変化について理解する」、「老年期における生殖機能と性的欲求との関連を理解する」は達成できたと考える。

加えて、高齢者の性は【性によって生じる生きがい感】があることを理解していた。学生は生殖にはつながらない高齢者の性の意義を生きがい感の向上と理解しており、授業目標の「高齢者の性と生殖を理解する」を達成できたと考える。

また、認知症によって性的欲求に抑制がきかなくなる可能性、人物誤認をする可能性があること、退職によって活動量が低下するため性的欲求を昇華できず性的欲求が高まること、配偶者がいなくなることで性的欲求の発散ができなくなったりすることから、高齢者においては【高齢者特有の原因による性的欲求の衝動】がみられると理解していた。したがって、看護や介護の場でも高齢者の性の表出がある可能性を理解していたと推察される。しかし、看護・介護の場での高齢者の性の表出に対応するカテゴリーがないことから、到達目

標「看護・介護の場での高齢者の性の表出について理解する」が達成できたかは判断できない。また、認知症の理解については、対象者は1年生であり、認知症の病態や看護について学ぶ老年看護援助論Ⅰ、Ⅱを未履修であるため、認知症の理解に不足があった可能性が考えられる。高齢者の性についての文献や研究論文は認知症を対象としていることが多く、講義資料でも認知症高齢者に関する資料を使用した。今後は高齢者の性の講義の中で認知症の理解を促す説明が必要である。

学生は、高齢者の性は【性にまつわる苦悩】があると理解していた。また、【性にまつわる苦悩】の一因として、高齢者の性について【社会の無理解】があることも理解していた。高齢者の性についての社会の無理解は、高齢化が進む我が国における課題であると考えられ、授業目標「高齢者の性についての今日的課題を理解する」を達成できたと考える。

学生は、高齢者の性に対する看護師の適切な対応として【性について話し合う】【多面的な性の理解】【偏見なく性を受容すること】【性的欲求を高めたい環境づくり】【その人らしい生き方の支援】を理解していた。したがって、到達目標「高齢者の性に対する看護師の適切な対応について考えることができる」は達成できたと考える。

以上のことから、高齢者の性を教授する講義内容としては概ね妥当であったと考える。

2. 「看護師の適切な対応」についての検討

高齢者の性に対する看護師の適切な対応について絶対的な正解はないが、看護教育としての講義内容を検討するため、ここでは看護学生が理解した高齢者の性に対する看護師の適切な対応が、看護として妥当性があるかを検討する。

実践の場において、性にかかわる事柄は無視されがちであることが指摘されている⁸⁾。しかし、多くの高齢者が性差はあるものの性的欲求をもっていること、性的欲求の充足はQOLの向上と関連があることを考えると、松下⁹⁾が指摘するように、対象の生活の質を担保するように働きかける看護師が、高齢者の性の問題を避けて通ることはできない。したがって、看護師や医療・介護スタッ

フが【高齢者の性について話し合う】場をつくることは看護として妥当であると考ええる。看護基礎教育において、性について話し合うことは恥ずかしいことではないことを意識づけしていくことが重要であるため、グループワークという講義形式も、性について話し合うことの重要性を学生が理解する一助になったと思われる。

性の権利宣言 (1999) によると、「セクシュアリティ (性) は、生涯を通じて人間であることの中心的側面をなし、セックス、ジェンダー・アイデンティティとジェンダー・ロール、性的指向、エロティシズム、喜び、親密さ、生殖がそこに含まれる。¹⁰⁾」と記載されており、「性」そのものに多様性が含まれる。したがって、看護師が高齢者の性を理解するためには、【性についての多面的な理解】が求められると考える。加えて、高齢者が性を持つことは当然であり、高齢者を全人的に捉えるためには【偏見なく性を受容する】ことが求められると考える。

看護師の仕事の特性として、夜勤、身体的接触が必要、1対1になる等が挙げられる。このような仕事上の特性は、患者の性的欲求に関連する可能性が考えられる。看護師が冷静な対応をすること、また性的欲求を昇華させる関わりを持つことによって【性的欲求を高めない環境づくり】を意識する必要があると考えられる。

日本看護協会の看護者の倫理綱領では、「看護は、あらゆる年代の個人、家族、手段、地域社会を対象としている。さらに、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通して最期まで、その人らしく人生を全うできるようその人のもつ力に働きかけながら支援することを目的としている。¹¹⁾」とある。生の中には性が含まれ、高齢者の性を考慮し、【その人らしい生き方の支援】をすることは看護職として望ましいと考える。

以上のことから、看護学生が理解した「高齢者の性に対する看護師の適切な対応」は妥当であったと考える。

3. 看護基礎教育における高齢者の性の教授の重要性

先行研究において、高齢者の性の学習経験のある学生は、高齢者の性に関心を持ち、その必要性を認識する割合が高かったと報告されている¹²⁾。加えて、性に関する積極的援助に関連する個人的要因では年齢や看護師としての経験年数よりも、性に関する看護教育の経験が関係していることも明らかになっている¹³⁾。QOL向上に働きかける看護師になるためには、看護基礎教育において高齢者の性について教授することが必要であると考ええる。しかし、性に対する反応は個人によって様々であり、性に対して嫌悪感を持つ学生がいることも考えられるため個人的な感情については否定せず、個人の感情とは別に、看護職として高齢者の性をどのように理解したらよいのかということを意識づけしながら講義やグループワークを実施する必要がある。

当該講義は、老年看護学概論と並行していたため、看護学生が高齢者の身体および心理社会的特徴を十分に理解できていなかった可能性が考えられる。また、当該講義の履修が1年次後期であったため、看護学生は基礎的な看護を学ぶ途中過程にあり、看護師としての視点を考えることが困難であったことも考えられる。今後は、高齢者の性に関する講義内容のさらなる検討に加えて、学生のレディネスを考慮した履修年次を検討する必要がある。

本報告は、限定された集団を対象とした研究であるため、結果の一般化には限界がある。また、学生の基本属性を調査していない。高齢者の性の理解に関連する学生のパーソナリティや個人的な体験が結果に影響を与えた可能性も考えられる。

V. 結語

看護学生は、講義を受講することで、多面的に高齢者の性について理解し、看護専門職者として的高齢者の性に対する適切な対応方法についての学びを得ることができた。看護学生は、高齢者の性についての先行研究や調査研究、映像資料等か

ら、高齢者の性を偏見なく捉え、QOL向上に関わる看護師の視点で高齢者の性を理解することができた。このことから、今回の講義内容は概ね妥当であったと考えられる。看護基礎教育において高齢者の性を教授することの重要性は報告されていたが、看護基礎教育での実践報告の蓄積は少なかつたため、本報告は、生殖という視点では捉えることができない高齢者の性についての講義内容・方法を検討する一助になったと考える。

VI. 謝辞

本報告にご協力くださいました学生のみなさまに厚くお礼申し上げます。また、本報告の遂行にあたり多大なご教示を賜りました三木喜美子先生（元健康科学大学教授）、高村かおり先生（元健康科学大学助手）、講義内容についてご助言を賜りました小野寺幸子先生（元健康科学大学教授）、データ分析についてご助言を賜りました静岡社会健康医学大学院大学の山崎浩司教授に深謝申し上げます。

VII. 文献

- 1) 文部科学省：看護学教育モデル・コア・カリキュラム，https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf。（2021年8月2日）
- 2) 刀根洋子，大久保麻矢，杉田理恵子，他：高齢者のセクシャリティに対する看護学生の認識，性ところ，vol.4, no.2, 176-82. 2012.
- 3) 小野寺幸子，刀根洋子，杉田理恵子，他：高齢者のセクシャリティに対する看護学生の認識と自尊感情との関係，性ところ，vol.5, no.2, 146-151, 2013.
- 4) 木下香織，古城幸子：老年看護学講義「高齢者の性」の教育効果－授業前後の看護学生の認識の変化－，インターナショナル Nursing Care Reseach, vo.13, no.3, 191-197, 2014.
- 5) 會田信子，諏訪さゆり，滝断子，他：老年期のセクシャリティに対する看護学生の態度と関連要因，日本看護学会論文集 看護教育，vol.30, 24-26, 1999.
- 6) 新村出編：広辞苑 第7版，岩波書店，2020.
- 7) 藤原智恵子，森田愛子，能川ケイ，他：高齢者の性に対する看護・介護職者の認識（その2）－在宅ケアに携わっている看護・介護職者の高齢者の性に関する知識と態度－，神戸市看護大学短期大学部紀要，vol.20, 51-63, 2001.
- 8) 島村澄江，秋山啓子，水戸美津子，他：「高齢者の性」に関する研究（2）：高齢者の性に関する研究の動向と課題，新潟県立看護短期大学紀要，vol.2, 3-18, 1997.
- 9) 松下年子，大森智美，藤村博恵，他：看護師が捉える高齢者の性意識－フォーカス・グループインタビュー調査の結果から－，性ところ，vol.4, no.2, 198-193, 2012.
- 10) 性の権利宣言，<https://worldsexualhealth.net/wp-content/uploads/2014/10/DSR-Japanese.pdf>。（2021年8月2日）
- 11) 日本看護協会（2021）：看護者の倫理綱領，https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/rinri/code_of_ethics.pdf（2021年8月2日）
- 12) 赤嶺依子，国吉緑，外間実裕，他：保健学科学生の「高齢者の性」に関する知識と態度の研究：知識・態度の日本語版評価尺度（ASKAS-J）を用いて，日本性科学会雑誌，vol.21, no.1, 12-17, 2003.
- 13) 小松浩子，野村美香，高見沢恵美子，他：慢性病をもつ高齢者の性に関する看護師の認識，感情と援助への行動意図との関係，老年看護学，vol.7, no.2, 83-82, 2003.

（受付日2021年8月2日）

（受理日2021年12月13日）

表1 高齢者の性に関する各講義回の到達目標と講義内容

回	到達目標	使用した資料
1 講義	性の構造と機能を生理的側面から理解する	1 高村寿子編著 (2009) : 性 : セクシュアリティの看護 QOLの実現を目指して, 1, 建帛社, 東京.
		2 小澤澗司, 福田康一郎監修 (2014) : 標準生理学 (第8版), 医学書院, 東京.
	加齢に伴う生殖機能の変化について理解する	3 真田弘美, 正木治恵編集 (2018) : 老年看護技術 (改訂第2版) 最後までその人らしく生きることを支援する, 南江堂, 東京
	老年期における生殖機能と性的欲求との関連を理解する	4 大工原秀子 (1979) : 老年期の性, ミネルヴァ出版, 東京.
		5 荒木乳根子, 石田雅巳, 大河玲子, 他 (2016) : セックスレス時代の中老年「性」白書, harunosora, 神奈川.
		6 西原かおり, 鈴井江三子 (2018) : 高齢者自身がつもつ高齢者の性意識, 兵庫大学論集, 23, 223-233.
		7 谷田恵美子 (2007) : 「高齢者の性規範から考えるケア」福山平成大学 看護・保健科学研究誌 109-116
	8 NHK クローズアップ現代+ 「高齢者だってセックス」言えない性の悩み : 2017年5月18日放送	
2 講義	看護・介護の場での高齢者の性の表出について理解する	9 日本医療労働組合連合会青年協議会 (2018) : 「医療・介護・福祉職場ではたらく青年職員に対するハラスメントについての調査」結果報告, 医療労働, 612, 22-26.
		10 UA ゼンセン日本介護クラフトユニオン政策部門 (2018) : 「ご利用者・ご家族からのハラスメントに関するアンケート」結果報告, 松下年子, 大森智美, 藤村博恵, 他 (2012) : 看護師が捉える高齢者の性意識—フォーカス・グループインタビュー調査の結果から—, 性とこころ 4(2), 189-193.
		11 藤原智恵子, 森田愛子, 能川ケイ, 他 (2001) : 高齢者の性に対する看護・介護職者の認識 (その2) -在宅ケアに携わっている看護・介護職者の高齢者の性に関する知識と態度-, 神戸市看護大学短期大学部紀要, 20, 51-63.
	12 小松浩子, 野村美香, 高見沢恵美子, 他 (2003) : 慢性病をもつ高齢者の性に関する看護師の認識、感情と援助への行動意図との関係, 老年看護学, 7(2), 83-92.	
	高齢者の性に対する看護について考えることができる	13 荒木乳根子 (2017) : 認知症高齢者の性的行動, コミュニティケア, 19(1), 10-12.
		14 Kitwood T.M (1997) / 高橋誠一 (2017) : 認知症のパーソンセンタードケア, 143-144, クリエイツかもがわ, 京都.
15 田口昌子 (1990) : 性的問題行動のある老年痴呆患者への看護, 日本精神看護学会誌, 33, 184-185.		
講義内容		
3 グループワーク	加齢に伴う生殖機能の変化について理解する	・グループワークの課題は、高齢者の性について理解したことと、自分たちが看護師として高齢者の性に遭遇した時にどのように対応するべきかを考えてまとめることであり書面と口頭で説明をした。 ・グループワークは6,7人のグループで学生が主体で課題について議論をし、同時進行で成果発表のために議論した内容をパワーポイントにまとめた。
	老年期における生殖機能と性的欲求との関連を理解する	
4 ワーク	看護・介護の場での高齢者の性の表出について理解する	・成果発表はパワーポイントを使用してグループ毎に発表。 ・質疑応答を含め1グループ7分程度であった。 ・司会、タイムキーパーは学生が実施した。
	高齢者の性に対する看護について考えることができる	
5 成果発表	高齢者の性と生殖の特徴を理解する 高齢者老年期の性についての今日的課題を理解する	

表2 看護学生が高齢者の性について理解したこと

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード	コード数
生殖機能と性的欲求の不均衡	生殖機能の衰退	生殖機能は衰える	1
	性的欲求の持続	性的欲求は何歳になっても持ち続ける	6
	生殖機能と性的欲求のギャップ	生殖機能の低下と性的欲求は比例しない	5
性行動の男女間の乖離	性的欲求の性差の出現	加齢に伴う性的欲求には男女で大きな差がある	4
	男性ホルモンの緩徐な低下による性的欲求の維持	男性は高齢でもテストステロンの分泌が保たれているため性行動が活発である	4
	直接的性行動への男性の願望	男性の性的欲求は性交を求める傾向がある	5
	女性ホルモンの急激な低下による性的欲求の減退	女性はエストロゲンの低下により性交痛などが生じ性行動を望まない傾向がある	6
	間接的性行動への女性の希求	女性は性的欲求があっても性行動を望まない傾向がある	4
		女性は言葉での愛情表現や手をつなぐことなどを求める	
性によって生じる生きがい感	性的欲求の充足によるQOL向上	性的欲求を満たすことがQOLの向上につながる	2
	性による生きがい感の向上	異性へ心がときめくと積極的に生きる気力が湧いてくる	3
性にまつわる苦悩	性的欲求が衰退しないことへの苦悩	男性高齢者は性的欲求があることに苦悩している	2
		性的欲求が抑えられず家族から失望されてしまうと苦しんでいる	
	夫婦生活の問題	男性と女性で性行動が異なるため夫婦生活の悩みを抱く	1
	男性の性機能衰退への不安	男性は老年期になると性機能に不安を持つ人が増える	1
社会の無理解	社会の偏見	高齢になれば性欲は無くなるものと多くの人が考えている	2
		日本の社会は高齢者の性に対して嫌悪感を抱いている	
	社会の逃避	社会が高齢者の性について目を伏せていた	1
高齢者特有の原因による性的欲求の衝動	認知症による性的欲求表出の変化	認知症により性的欲求に抑制がきかなくなることがある	2
	喪失体験による性的欲求の充足困難	配偶者が亡くなることで性的欲求の発散ができなくなる	3

表3 看護学生が高齢者の性に対する適切な看護師の対応として理解したこと

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード	コード数
性について話し合う	高齢者と性について話し合う	高齢者と性について話し合う	6
	性について相談できる環境づくり	家族や医療スタッフを含めて性について自由に語れる雰囲気づくりをする	2
	性について家族へ説明する	高齢者の性について家族に理解してもらう	1
多面的な性の理解	生理的側面からの性の理解	高齢者の性的欲求は生理的なものである	6
	性のポジティブな側面の理解	高齢者が異性に関心をもつことは生きる意欲につながると捉える	1
	性的欲求が表出する背景の理解	高齢者が性的欲求を表出する心理的背景を考える	2
偏見なく性を受容する	高齢者の性へ目を向ける	高齢者の性と正面から向き合うべき	3
	高齢者の性を受容する	高齢者の思いを傾聴する	4
	偏見のない性の理解	高齢者の性について偏見を持たない	8
性的欲求を高めやすい環境づくり	気分転換できる場をつくる	レクリエーションの場をつくり心の安定を図る	9
	タッチングの活用	タッチングを利用して安心感を与える	5
	看護師の冷静な対応	対象者と同性の看護師が担当する	9
		複数の看護師で対応する	
	看護師自身が身だしなみに気をつける		
		毅然とした態度で注意する	
その人らしい生き方の支援	個別性にあつた対応	性的欲求は個人差があるため対応の仕方に正解はない	2
	高齢者の性を支援する	高齢者が性について前向きに考えられる環境を作る	3

Abstract

This study aimed to clarify what nursing students understood regarding the sexuality of older adults and how to respond to it appropriately as nurses. It also aimed to examine the content of a lecture on older adults' sexuality.

After attending lectures regarding older adults' sexuality, and reproduction and development in old age, the nursing students were asked to write a report: the contents of the students' reports were analyzed qualitatively.

The study found that the nursing students understood the following points: a) the imbalance between reproductive function and sexual desire; b) gender divergence in sexual behavior; c) reason for living generated by interests of sexual desire; d) sex-related suffering; e) society's lack of understanding; and f) difficulty controlling sexual desire due to causes specific to older adults.

The nursing students also understood that the appropriate responses of nurses to older adults' sexuality included: a) discussing sex with older adults; b) understanding sexuality from multiple perspectives; c) accepting sexuality among older adults without prejudice; d) creating an environment that does not increase sexual desire; and e) supporting older adults with respect for individuality.

In this study, through lectures, the nursing students were able to understand and positively perceive older adults' sexuality with scientific evidence and learn how to respond to it as nursing professionals.

Key words : older adults, sexual health, sexuality, nursing student